



2024年
4月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者
司祭 林 和 広
印刷所
文明堂印刷所

「いつも新しい一枚の葉書」 よき牧師はよき信徒を得、よき信徒はよき牧師を得る

司祭 マルコ 藤井 尚人

春や昔……、それぞれの教会で、いのちのパンを裂き、分かち合い、主のご復活をお祝いされたこととお喜び申し上げます。私事ながら、私も還暦の年となり、振り返れば、司祭に按手されて36年、イエ

スさまは、今日も、人生の旅路に共にいて下さいます。よき牧師はよき信徒を得、よき信徒はよき牧師を得る、父が生前よく口にしていた言葉です。1988年10月10日の朝、お祝いと共に届いた一枚の葉書。差出人は、私の教父、長年にわたり、信徒として教会を支えてこられた方からのメッセージでした。

霊的指導者として高名なカトリックの神父さん。その著作の中で「教会の停滞の原因は、ほとんどが教会内の人間

関係です」とシンプルに指摘をされた後、御自身の牧会の経験から、その暗く湿った雰囲気、「悪い霊が働いている時の感覚は、窓が閉められていて、空気が通らない、こもったような」と表現されています。イエスは言われました。「わたしはよい羊飼いです。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている(ヨハネによる福音書10章14節)」。聖書で「知る」という言葉は、一方通行ではなく、お互いの心を通った相互通行の人間関係。ようするに、風通しがいい、ということ。よき教師はよき生徒を得、よき政治家はよき選挙民を得、よきアーティストはよき推しを得、よき医師はよき患者を得、よき友

復活されたイエスは、昇天までの40日、夕暮れのエマオで、早朝のティベリアス湖畔で、いずれも弟子たちとくに食事をしながら、神の国について教えられました。食事を共にするということは一緒に生きてゆこう、という象徴的行為。教会にとって、一番大切なことは「何かを成し遂げる」ことではなく「みんなで一緒に生きる」ことなのです。 イースターのアレルヤの歌声のリフレインは、聖霊降臨の大祝日まで響きわたります。愛と希望と和音が新しく生まれる春の歌が、私たちの心のすみずみにまで、ゆきわたりますように。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように」(ヨハネによる福音書13章34節)
(姫路顕栄教会牧師)

はよき友を得……。

神戸教区 青年交流会 報告

神戸聖ミカエル教会 クリスティーナ 八代 優



2023年2月23日(金) 25日(日)、米子聖ニコラス教会で青年交流会が開催されました。松江・米子・徳島・神戸から7名の青年が参加し、神さまのみ守りのもと交わりのときを持つことができました。今回の交流会のメインプログラムは大山高原でのウィンタースポーツ体験で、白銀の世界に身を包み皆でスキーやスノーボードを楽しみながら親睦を深めました。

2日目の夜にはニコラス教会の信徒の皆さまとお鍋を囲みながら、さまざまなかたが話に花を咲かせました。最終日は主日礼拝にあずかり、昼食におうどんをいただきました。地方教会でも子どもや青年の数が多く、活気に溢れた雰囲気、驚きを隠せませんでした。思い返せば20年ほど前の米子青年交流会に参加したときも、ニコラス教会の皆さまに温かく歓迎していただきました。これも歴代の司祭さまの牧会が継承され、信徒の皆さまがこれまで教会を守ってこられた賜物なのだと実感します。



交流会のあと、参加者のひとりから「久しぶりの教会行事で参加するのに勇気がいりましたが、良い交わりを持てたことに感謝します。ブランクを感じさせないところが教会の良いところだと思います。」という感想をいただきました。その青年のようにたとえ教会から足が遠のいていても、すべての信徒にとつて教会が「つねに心の拠り所」でいられるように、また新たに教会の門を叩く方にとつても、希望に満ちた開かれた教会・教区となれるよう神さまの声を傾けながら教会活動に励もうとあらためて思いました。

宣教委員会から教会の皆様へ(1)

教区宣教委員会 委員長 司祭

バルナバ 瀬山 会治

教区宣教委員会では、2020年からの3年間、教会の宣教について多くの協議を重ねてきました。それは私たちの教会が抱えている問題が大変深刻であるからです。

私たちの教会が抱える問題とは「聖職・信徒の高齢化と減少」であり、それに伴う献金の減少、経済的な負担の増大が顕著になってきます。教会施設の維持管理も困難になりますし、バザーやコンサートなどのイベントもマンパワーの不足により、以前に比べ開催が困難になってきています。

これらの諸問題に対して宣教委員会では、聖職と信徒・関係者に向けたアンケートを行いました。回答率は、教役者が90%、信徒・関係者は22%でした。このアンケートを参考に神戸教区と各教会に考えていただいた「宣教」についての提言を昨年2023年の教区会に宣教委員会の報告として提出させていただきました。すでに、各教会に宣教委員会からの「宣教提言」をお届けしましたので、教会の教役者と信徒・関係者の皆様には、これを基に宣教について話し合いの時間を持っていただきたいと願います。

さらに宣教委員会では、今年4回に渡り、「宣教推進講演会」として教会の宣教を後押しする講演会を予定していますので、ぜひご参加ください。神の教会の使命(ミッション)である「福音宣教」をさらに押し進めていただきたく、お願い申し上げます。

「宣教推進講演会」については4面にも記載

世界の聖公会の動向

聖公会とカトリックの司祭たちが、

共にますますの発展を願う

司祭 ポール・トルハースト(神戸MTSチャプレン)

エキュメニカル・サミット

命を受けていた。

今も、約60年間に渡り和解に

です。

このような対話を礎として、私たちが共通して抱く信仰の要素と、教会生活におけるその具体的な表現との間のギャップを埋めることこそ、IARCCUMの任務であり使命です。

『共に発展を(Growing Together)』に参加した聖公会とカトリックの司祭たちは、会議後共に声明を出した。「私たち共通の証し、召命、そして献身」と題されたこの声明は、ローマとカタベリーで

このサミットは、IARCCUM(統一と宣教のための国際聖公会・ローマ・カトリック委員会)によって主催されている。

向けた歩みを続けています。時には険しい道もありましたが、聖霊の働きによって私たちの教会は粘り強く対話を続け、非常に実りある時間でありました。

この声明はIARCCUMの司祭たちからの重要なコメントであり、会議中の彼らの思いについてのみならず、団結のため努力する継続的な取り組みについても書かれたものである。

司祭たちが巡礼と共同宣教と証しについて1週間(1月22日〜29日)にわたって議論した集会の後に発された。

「私たち共通の証し」は教会と世界情勢に関連する重要なテーマを取り上げ、司祭たちのコミットメントの概要だけでなく、より広範な教会への一致した呼びかけとして書かれたものである。

キリストにおける私たちの交わりは、喜びといのちの源であることを、私たちは進んで宣言します。この交わりはまだ完全なものではありませんが、互いへの祈りによって

声明はこう結ばれている。ローマとカタベリーでの巡礼を終えて、私たちがそれぞれの地域の教会に戻るとき、カトリックと聖公会で互いに協力し合う私たちの働きにより、世界的な両教会が一致すること、すべてのキリスト者が和解することを予感させるものとなるよう祈ります。

キリスト教一致祈禱週間中に開催されたこのサミットには、世界27カ国を代表するカトリックと聖公会の司祭がペアで出席した。期間中、ペアはそれぞれ教皇フランシスコとカタベリー大主教から任

その声明の冒頭には、次のように記されている。4世紀にわたる対立と分離を経て、カトリック教会とアングリカン・コミュニオンは

導きました。しかし私たちの教会では、まだやっと共にできることを始めたばかりなの

管区事務所だより
2024年2月17日より

～オンライン～ 祈りのつどい 共にいのる・出会い・交わり

西日本宣教協働区：神戸教区、九州教区、沖縄教区の教会紹介と夕の祈りを共にします。

第13回 4月18日(木) 19:00～ (担当)九州教区

Zoomでアクセス ID:918 7200 5616 パスコード:762780

右のQRコードでもご参加できます。



4月21日
神学校のための主日
 ウィリアムス神学館・
 聖公会神学院のために祈り、
 信施を献げましょう。

2月15日(木)
祝洗礼
 ダビデ 北野悦豫
 神戸昇天教会

鳩だより
 《敬称略》

3月4日(月)
ご逝去
 マリア 牧岡 ちよの
 神戸聖ミカエル教会

3月4日(月)
 ペテロ 濱條 武久
 徳島インマヌエル教会



5月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2024年5月2日(木) 午前10:30
 場所 神戸聖ミカエル大聖堂
 司式 主教 小林 尚明
 説教 司祭 藤井 尚人

*** 5月の記念逝去教役者**

2日	司祭	覚前 政蔵
5日	宣教師	ヴァイオレット ヘッド
6日	司祭	吉本要太郎
9日	司祭	ケン ピーターズ
10日	司祭	フランク ウェストン
14日	伝道師	マリヤ 松山 初子
16日	司祭	パウロ 韓 浩
19日	主教	パウロ 八代 欽一
22日	司祭	ペテロ 長澤 四郎
24日	司祭	ヨハネ 村上 豊吉
24日	司祭	パウロ 大塚 磐
26日	司祭	末好 萬吉
27日	司祭	バルナバ 阪村 達雄
28日	司祭	バルナバ 與賀田 千秋
29日	司祭	アーネスト ハッチンソン
30日	宣教師	メイブル バーグス
31日	司祭	サイモン ベインズ

神戸教区 宣教委員会主催
宣教推進講演会

【わたしたちのビジョン】
 「ともに聴き 分かち合い
 伝えていこう、イエスさまの福音を」
 ~日本聖公会神戸教区宣教150周年まであと3年~



場所 日本聖公会神戸教区神戸聖ミカエル大聖堂

開催日時	講演者	趣旨
4月20日(土) 13:00~	ナタナエル 植松 誠 主教 (前北海道教区・前首座主教)	教会の使命である宣教についての提言
6月15日(土) 13:00~	松谷信司 氏 (キリスト新聞社 代表取締役社長)	これからの教会に必要な宣教の在り方を提言
8月31日(土) 13:00~	セシリア 大岡左代子 司祭 (京都教区・管区女性デスク)	あらゆる信仰者が共に生かされ、宣教する教会を提言
10月19日(土) 13:00~	ガースチン 小林尚明 主教 (神戸教区主教)	宣教150周年を迎える神戸教区・各教会の説教を提言

当日、会場に来られない方もリモートにて参加できます。教会でも視聴できるご配慮をお願いいたします。

【リモートでの参加方法】

ZOOM
 ミーティングID
 972 4026 9052
 パスコード：500806

